

クラス番号	246	ゼミタイプ	サービスラーニング型（コミュニティ型）
		担当教員名	杉浦 公紀
テーマ	住民主体の「ふだんのくらしのしあわせ」づくりとは —社会福祉協議会の取り組みを中心に—		

ゼミナール概要

目的

みなさんは社会福祉協議会という機関を知っていますか？地域の福祉を推進する目的から全国の自治体に設置され、略して「社協」と呼ばれることが多い民間の機関です。では社協にはどのような役割があり、どのような人たちが活躍しているのでしょうか。このゼミでは社協での活動を通してみえてくるさまざまな課題について、どうすれば解決していくのかをみんなで考察していくことを目的としています。ただし、社協が活動の中心としている「地域」は奥が深く、抱える課題も多種多様です。だからこそ、肌で直接感じることで得られる経験や学びには価値があり、先述した目的を達成していくプロセスを通じてみなさんの持つ福祉観にも大きな影響を与えるものと期待しています。

内容

夏休み期間中に市町村社会福祉協議会の活動に5日間参加します。ここではただ単に社協で働く方々のお手伝いをするわけではありません。各自で活動の目的を決め、その達成に向けて地域というフィールドで実践することになります。よって、活動前の調査や事前学習が大切になります。そこから、地域の特性や課題、強みを把握し、地域住民がそれぞれに抱く生活の困りごとを少しでも解消するための方策を考えていくことになります。日本福祉大学の学生・福祉専門職を目指す立場・一人の地域住民など様々な視点で地域を見つめ、自分たちに何ができるかを考えて実践してみましょう。

授業計画

前期の授業は、社協の役割や機能の理解、活動する地域の特性や課題、活動の目的と内容を考えるための事前学習を中心に行います。そして夏休みの期間を利用して活動し、後期はその振り返り（リフレクション）をします。振り返りと言ってもただ単に自分たちが行った活動の反省にとどまらず、その経験がその先地域にとって、あるいはあなた自身にとってどのように役立ちそうかを考えるきっかけにしていきます。活動報告会では活動先の皆さんを招き、学生、教員合同で振り返りをします。その後、皆さんが学んだことを「研究」という形でまとめ、更に見識を深めていきます。

担当教員からのメッセージ

地域福祉を推進するための方法はたくさんあり、地域特性、自然環境、住民意識など、さまざまな要素によってその姿は変わります。また、推進の方策をマクロ・メゾ・ミクロどのレベルで捉えるかによっても実践の内容は異なるでしょう。大学で理論や目的を学ぶことはもちろん大切ですが、同時に地域の現状を自分の目で見つめること、そしてそこから得られる気づきやアイデアを展開することで、地域をより身近に感じることができるでしょう。その意味では理論学習と実践の往還が重要だと思っています。ぜひそのプロセスの一端を体験的に学んでみませんか。

本講義ではグループワーク形式を基本とし、調べ学習や資料作成、研究をグループ単位で行います。また、資料作成や研究を効率的にすすめるうえで、ノートパソコンがあると便利です。準備されることをおすすめします。